

## 山下町地区多世代交流実践事業

### 取組に至る背景・事業の目的

介護保険制度の変革期を迎え、地域包括ケアが本格的に動き出し、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり・まちづくりの推進や、小規模多機能型居宅介護が地域の拠点機能を持つこと等が求められている。

地域を巻き込み、子供からお年寄りまで地域住民の多世代の交流が促進される取り組みとして、事業所駐車場を公園として開放することで、より地域住民間で顔が見える関係を構築し、地域の支え合いに繋げていく。

### 事業内容

- 地域住民に向けた勉強会・ワークショップを実施(全6回)  
・『制度的な理解地域包括ケアシステム、地域の役割等』『自分たちが「何が出来る?何をしたい?』『多世代交流の拠点になるにはどうしたら良いか?』等をテーマに、グループワークを中心に検討
- コミュニティハウスの運営・運用を行う団体の形成  
・ワークショップ後、継続して月1回の会議を開催
- コミュニティハウスの建設  
・着工前・後にイベント企画・実施



【コミュニティハウスイベントの様子】

### 事業効果

- ・ワークショップ全6回終了後、地域住民と月1回の会議を継続し、合意形成を図った。延べ95人の地域住民、子育て中の母親、事業所スタッフがワークショップに参加することにより、地域住民が多世代実践に向かう主体的な活動意識の醸成が図られた。
- ・コミュニティハウスの運用の主体を参加メンバーで構成する「&HOUSE」が生まれた。また、「つなぐ・安堵・ありがとう」の意味を込め、コミュニティハウスを「あんと」と命名した。
- ・子どもの居場所「あんと」の着工前イベントでは地域の感心の高さからか地域住民40名の参加があった。お披露目イベントでは地域住民62名の参加があった。
- ・完成後の平成30年4月より毎週水曜日を解放し近所の小学生が遊びや宿題をしに訪れている。そこに事業所のお年寄りも加わり多世代交流が促進され、地域に新たなつながりが生まれている。
- ・地域団体からのスペース利用等の問い合わせも多くなり、月3～4回程度貸し出しをした。
- ・岡谷市健康福祉部から依頼があった取組内容のプレゼンを実施するなど、行政との連携を図った。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・地域住民の皆さんに主体性を持ってもらうために、自らが地域を支える取組を理解してもらうのは、多くの時間と根気が必要であった。何を取り組んでいるのかわからないという住民の声もあり、活動の周知が難しかったが、地区の回覧板などを利用して情報の周知を工夫した。
- ・多世代交流拠点を目指すも、世代により課題が異なる中で、チームの目的や課題の優先順位について検討、すり合わせることに苦労した。
- ・現在は21名のチームメイトで運用の検討・イベントやワークショップの企画・検討をしているが、平成30年度は大人の居場所としてキッチン・トイレ付きのコミュニティハウスの建築を目指し、今後こどもカフェの運用・企画・検討・実施をしていく。

### 【選定のポイント】

地域の子どもの居場所を高年齢者介護施設内に置くとともに、今後ワークショップを通じて信州こどもカフェとして運用することにより、高齢者と子ども達との多世代交流の促進が期待される。

団体名	株式会社 和が家 (岡谷市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0266-75-2606	事業費	3,934,404円
メールアドレス	imai@wagaya.co.jp	支援金額	2,939,000円